

# CNALレポート・ジャパン

Conferencing industry News report, research & Analysis - CNA Report Japan

創刊：1999年12月

発行日：毎月15日・月末

取材・編集・発行：橋本啓介

テレビ会議・ウェブ会議・電話会議システム専門 定期レポート

Vol. 11 No.15 2009年8月15日号

編集:[editor@cnar.jp](mailto:editor@cnar.jp) 広告:[pr@cnar.jp](mailto:pr@cnar.jp) 読者登録:<http://cnar.jp>

Copyright 2009 CNA Report Japan. All rights reserved.

## 製品・サービス動向-国内

コクヨ S&T、フルハイビジョンに対応した meetima XVD コミュニケーションシステムを発表



「meetima XVD コミュニケーションシステム」使用例  
(コクヨ S&T 資料)

コクヨ S&T 株式会社(大阪市東成区)は、フルハイビジョン(1,920x1,080 画素)に対応した「meetima XVD コミュニケーションシステム」を発表した。(7月22日)発売は今年10月を予定。

meetima XVD コミュニケーションシステムは、XVD Technology Holdings 社(米国カリフォルニア州)が保有する映像高圧縮技術 XVD を採用することで、フルハイビジョン映像を、1Mbps で伝送することができる。また QoS 機能として前方誤り訂正機能(XVD Pro FEC)や自動帯域制御機能を搭載。セキュリティに関しても AES 暗号化方式をサポートしている。

XVD Technology Holdings 社とは、2009年4月に同社技術を採用した製品の製造と販売のライセンス契約を締結している。

同社によると、XVD 技術によって、高価な帯域保証の専

用線を利用しなくても、ベストエフォートタイプの一般光インターネット回線で変動する帯域でも安定した高画質と通信費用面でも安価なランニングコストでの運用が可能と説明する。またXVDの圧縮技術は、ブロックノイズ(画面上に現れる透明の四角なブロック)といわれる映像劣化をおこしにくい等の特長があるという。

画面解像度および帯域は、スペックシートによると、1920x1080/60i(1 ~ 5Mbps)、1280x720/60p(500kbps ~ 5Mbps)、720x480/60p(128kbps ~ 400kbps)。音声帯域は、16kbps ~ 128kbps。1920x1080 と 1280x720 は、音声帯域 64kbps を含んだ数値。

meetima XVD コミュニケーションシステムは、双方向の映像コミュニケーションに加えて、最大10拠点までの映像配信にも対応している。meetima XVD コミュニケーションシステム同士を専用の配信サーバを介さず、最大10拠点に映像配信ができる「講義モード」を提供する。この講義モードは、講師の拠点の映像を受講者側へ配信する仕組み。講師の拠点は、1ヶ所で、受講者側は、最大10拠点まで。

この講義モードでは、一方向の配信(Unicast 通信)だけでなく、講師側が受講者側(任意1拠点)を選択することで、双方向の会話ができる「発言者応答機能」を備えている。逆に、受講者側(1拠点)が講師側との会話を希望することも可能。その場合、受講者側の画面上に表示される「発言希望ボタン」を選択する。そこで講師側がその発言希望を受け付けることで、双方向で会話を行えるが、音声は全拠点に配信されるかたちになる。

meetima XVD コミュニケーションシステムでの通信時にデータ共有を行う場合は、コクヨ S&T が提供している ASP サービス「meetima PC 会議システム」を併用すれば資料の共有も可能となっている。

ユーザインターフェイスについては、使いやすさを追求しているという。操作画面やリモコン、あるいは meetima XVD コミュニケーションシステムの筐体の小型化といった点だ。

操作画面の特長としては、わかりやすい日本語中心の説明画面と、接続の前に相手先の状況が動画で確認できる「ライブアイコン機能」を搭載。さらにタイマー機能で主電源の自動 ON/OFF、自動接続タイマーも提供。「定時刻での自動起動や自動終了といったような常時接続コミュニケーションを目指した運用などをサポートできる。」(コクヨ S&T)



写真左：  
meetima XVD  
コミュニケーション  
ボックス  
(コクヨ S&T 資  
料)  
「meetima XVD  
コーデックボッ

クス(映像圧縮伝送装置にあたりシステム構成の中心となるもの)」本体の大きさは、A4 サイズ程度(外形寸法は、約 255(W) x 239.5(D) x 54(H)m、本体重量は、約 2,050g)で



縦置きにも対応。付属の専用リモコン(写真左、コクヨ S&T 資料)は必要機能に限定したボタン数に絞っている。「利用者にとっての使い易さを徹底的に追求した。」(コクヨ S&T)  
meetima XVD コミュニケーションシステムを導入す

る場合、コクヨ S&T では、インストールの手間の削減とスムーズにアフターサポートを提供するために、2 パターンの標準構成を推奨している。まず標準推奨構成 A(～8 人規模)では、meetima XVD コーデックボックス、フル HD カメラ、フル HD ディスプレイ(40 型)、エコーキャンセラ付きマイクスピーカ。一方標準推奨構成 B(8～20 人規模)のスペースに適し

た構成で、XVD コーデックボックス、フル HD カメラ、フル HD ディスプレイ(50 型)、エコーキャンセラ、マイク、アンプスピーカ。人数の増加に合わせてマイクの本数を拡張可能。

カメラ入力は、HD-SDI(1)、HDMI(2)、映像出力は、HDMI(1)、音声入出力は、RCA。カメラ制御は、VISCA 規格(ソニー株式会社)に対応。meetima XVD コミュニケーションシステムの本体前面には、HDMI を装備しているため、市販の対応したハンディ型ビデオカメラを接続することが可能。

エコーキャンセラの推奨品としては、ヤマハ株式会社が 7 月 22 日発表 9 月発売予定の「PJP-EC200」を採用した。小会議室から大会議室まで対応した会議用エコーキャンセラ。

meetima XVD コーデックボックスのメーカー希望小売価格は、126 万円(消費税込み)。推奨構成(meetima XVD コーデックボックス、HD カメラ、フルハイビジョン対応ディスプレイ、音響機器)の参考価格は、250 万円(1 拠点)。

発売後 1 年での売上目標は、5 億円。オフィスや工場、研究施設、教育、医療サービスなどに導入提案を行っていく考えだ。

## ネットスピードテクノロジー、日中間のテレビ会議・Web 会議をスムーズにする SaaS サービスを開始

株式会社ネットスピードテクノロジー(東京都渋谷区)は、日本と中国の間でのテレビ会議・Web 会議が行える SaaS ベースのサービス「ComeSta(コメスタ)」を 7 月 27 日から提供開始と発表。(7 月 22 日)

日中間でのテレビ会議・Web 会議は、映像や音声の遅延が発生しやすいという通信上の問題や、中国語と日本語両方に対応していないなどの問題によって、スムーズに会議を行うことが難しい場合があったという。今回同社では、これらの不便さを解消するために、SaaS ベースのテレビ会議・Web 会議サービスを発表した。またユーザが簡単

に利用できるように ComeSta は、専用のソフトウェアの購入やダウンロード、あるいはインストールなどの手間は一切必要ない。インターネットに接続したパソコンがあればすぐに開始できるサービスと説明する。

ComeSta は、中国主要都市(広州、天津など)に約 40 台の Web 会議サーバを展開。仮想化ネットワークでユーザに最適なサーバを選択する。それに加えて、第 3 国に設置したサーバにより、日本中国間を最適なネットワーク経路で結ぶといった、快適な環境でのテレビ会議・Web 会議の利用のための工夫を行っている。さらに ComeSta の操作面においても、日本語と中国語が簡単に切り替えられるようになっており、使いやすさを追求した。さらに中国からの利用に関しても南京にサポート体制を整えた。

### NTTアドバンステクノロジー、RADVISION の高画質映 (HD) 通信機器開発プラットフォームの販売を開始

NTTアドバンステクノロジー株式会社(東京都新宿区)は、ラドビジョン社(RADVISION)が開発した組み込みデバイス向け開発プラットフォーム「BEEHD」の販売を 6 月 30 日より開始した。

BEEHD は、テキサス・インスツルメンツ社の DaVinci テクノロジーをベースに、通信プロトコルスタック(SIP/H.323/RTSP)と音声・映像コーデックをインテグレートした高画質映像(HD)通信機器開発プラットフォーム。

BEEHD を使用することで、標準画質映像(SD)通信機器と比べ開発が難しいとされている HD 通信機器を ASIC(特定用途のための集積回路)の開発なしに、従来の半分程度のコスト・期間で開発することができるため、高画質映像通信モジュールや通信機器を開発するベンダー企業や研究機関などで活用できると同社では説明する。

BEEHD の仕様については以下のとおり。通信プロトコルは、SIP、H.323、RTSP、RTP/RTCP。音声コーデックは、G.711、G.729、G.722.1、G.722.2。映像コーデックは、H.264/AVC、H.264/SVC。この SVC は、2009 年 9 月末対応予定。解像度

は、QCIF、CIF、4CIF、VGA、HD(720p)。HD(1080p)はオプション。フレームレートは、～30fps まで。



#### BEEHD の適用製品 (NTT アドバンステクノロジー資料)

特長は、以下のとおり。(1)テキサス・インスツルメンツ社製 DaVinci・TMS320DM6467 デジタル・メディア・プロセッサ対応のラドビジョン社製映像コーデックエンジンを搭載。(2)全世界の通信機器ベンダーに採用されているラドビジョン社製通信ミドルウェアを搭載。(3)Call Control(通信制御部)にて他ベンダー通信機器との相互接続性を吸収。(4)Media Engine(メディア制御部)にてコーデックと RTP/RTCP の最適な結合。(5)FEC(Forward Error Correction)、ジッタバッファ機能搭載。(6)H.264/SVC 対応。

BEEHD は、同社グローバルプロダクツ事業本部メディアコミュニケーションプロダクツビジネスユニットにて取り扱っている。

#### 事業動向-国内

##### 日本タンバーク代表取締役社長に公家尊裕氏が就任、販売チャネルの拡大に力を入れる

日本タンバーク株式会社(東京都港区)は、8 月 3 日付で公家尊裕氏が日本タンバークの代表取締役社長に就任したと発表。

公家氏は、今後日本における統括責任者として、顧客の開拓および関係強化、販売チャネルの拡大と緊密な関

係構築、戦略的な業務提携に注力することで、さらなる売上の増加や日本市場でのシェア拡大を図っていく。

公家氏は、タンバーク入社以前は、デル株式会社、F5 ネットワークスジャパン株式会社、日本ラドウェア株式会社、ウェブセンス・ジャパン株式会社等で要職を歴任。ハードウェアおよびネットワークソリューションビジネスに長年従事し、特にパートナープログラムの整備やエンドユーザとの関係構築において豊富な実績を有している。

## 海外展示会レポート

### Infocomm Orando 2009

会場：米国フロリダ州  
Orange County Convention Center  
2009年6月14日～19日  
主催：InfoComm International  
<http://www.infocommshow.org/>

Infocomm には今回初めて参加した。日本からオーランドまではさすがに遠く、初めて降り立ったデトロイト空港を経由してオーランド現地時間16日夜に到着した。20時間近い長い往路だったが、デトロイトからオーランドまでは隣席に、以前オーランドに住んでいたという母と娘の家族連れが座り2時間ほどの機上での時間もいろいろな話題で楽しく過ごせた。オーランドには娘のバレーボール大会で行くところだ、そうだった。

機内では談笑する乗客があちこちで聞こえ、到着までのしばしの時間を楽しんでいるようだった。

ところが、オーランドは丁度激しい雷雨で飛行機が着陸できないという。午後8時に到着予定だった。しかし、そのため仕方なく30分ほど上空を旋回、その後機長の案内によると、後もう20分ほど旋回してみても着陸が難しい場合、近くのジャクソンビルに給油に向かうと言う。一転、和んだ雰囲気から飛行機は大丈夫かという緊迫した緊張が機内を覆ったが、10分ぐらい経つと雲間に切れ目ができ、そこから着陸ができ

るという機長のアナウンス。機内全員が祈るような気持ちになった。その後雲間を抜けオーランドの夜景を横目に見ながら、機体は徐々にオーランド空港に下降、滑走路にタッチダウンした時は、機内では大拍手。全員ホッとした感じ。予定よりも1時間ほど遅れで到着した。

橋本も一時は恐怖が心の中を走ったが、タッチダウンしたときはやれやれという気持ちで、その後長旅の疲れがどっと出て来た。到着後携帯電話で早速“無事”を連絡する人達もあちらこちらで見られた。ドアが開くと皆急ぎ足。

ホテルには乗り合いのシャトルバスで無事到着。自分を入れて5人乗ったが皆 infocomm 参加者。とにかく早く寝たいと思ったので、売店で簡単な夜食を買い、部屋に急行しシャワーをあびて床に入った。翌日から早速会場で、長旅の疲れと時差とあわせ、「寝坊しないか」不安な寝入りだった。

夜中なんども眼が開いて、翌朝、疲れがとれないなど思いながらも、7時に起床。あまり眠れなかったと思いつつも、ホテルの自室のドアには infocomm 新聞が置かれている。daily news のため会期中毎日届けてくれるという。毎日100ページ弱タブロイドサイズ。(下写真)



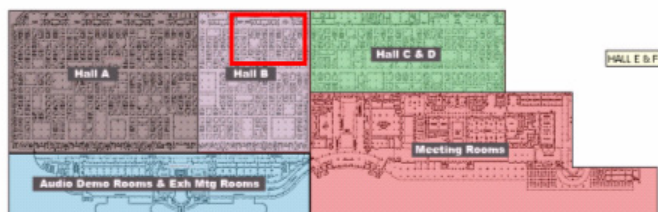
天気も最高によく、日差しが強い。そしてうだるような暑さ。ホテルには家族連れ客多数ロビーで観光に行くような感じだった。早速ホテルのプールで泳ぐ人達もいる。

彼らをちょっとうらやましがりながら簡単な朝食をさっとすませ、ホテルには infocomm 専用バスがピックアップしてくれることになっているので、そのバスに乗り会場に向かった。会場には、10分ほどで到着した。

まずは会場の広さに驚いた。Infocomm の会場は、Hall A、B、C、D を使い、その他、出展企業が大小のカンファレンスルームを貸し切り、自社製品の展示や商談室として使っていた。全体的に見て、出展企業には、日本企業も結構

あったので、日本人も結構見かけた。たぶん出展企業関係  
 が取引先関係の人達が多かったのではないだろうか。

会議システムパビリオン(Unified Collaborative  
 Conferencing Pavilion)は、Bホールのざっと1/3弱のスペ  
 ースを使っていた。パビリオンの出展状況については、お手  
 数だが、infocomm のサイトで詳細を参照されたい。



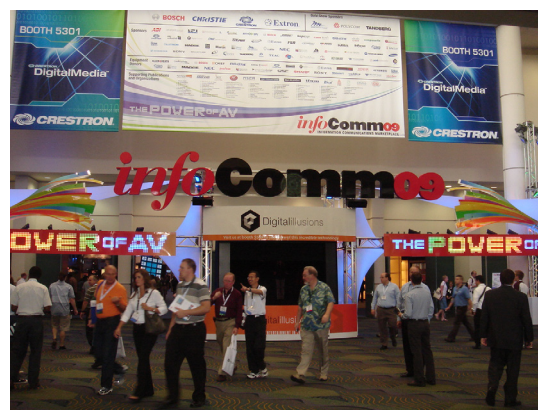
infocomm Orlando 2009 floor Plan ( infocomm 資料 )

まず受付をすませてから、とにかく、会場全体の規模感と  
 いかそいったものをつかみたいと思い、ホールAの端か  
 らホールC、Dの端まで歩いた。ゆっくり歩いて15分ほどだ  
 っただろうか。Infocomm は、Audio & Visual 関係のベンダー  
 が多数出展しているわけだが、メーカーや販社、システムイン  
 テグレータなど大小さまざまな企業が出展しており、Audio &  
 Visual 関係では、今年は多少景気の影響を受けているよう  
 だが、世界最大の展示会だということはいくわかった。しかし、  
 全てを詳しく見るのは「ほぼ不可能！」と思った。

会議システムパビリオンも、筆者の目からして、関係のな  
 さそうなものもあったが、フロアプランを見るかぎり50社から  
 60社くらいあっただろう。もっともパビリオンに入っていない  
 会議システム企業も何社かあった。たとえば、Aホールに  
 あったソニーやクリアワン、Bホールのタンバーク(ただパビリ  
 オンと隣接するところだったが)やスマートテクノロジーなどだ。

ブースの大きさとしては、タンバークやポリコムがのブースが  
 一番大きかった。98年頃の両社の展示会のブースと比較し  
 ても、そこに企業の成長を感じさせ、今のブースを見ること  
 で業界のリーダーであるという観を見せている。ポリコムもタン  
 バークも、主要な製品全てを展示、またデモを行っていて、  
 ブース内を一通り周れば製品の特長がわかるようになって

いた。ちなみに、タンバークは、10年前ぐらいのブースイ  
 メージから全く変わった。以前はブラックタイにブラックス  
 ーツ、そして黒を基調としたブースだった。ここ5年ぐら  
 だろうか、アメリカ人のCEOが入ってからイメージが変わ  
 った。



展示会場正面入り口



会議システムパビリオン(パビリオンの一部)

今回の会議システムパビリオンとしては、テーマがテレ  
 ビ会議とテレプレゼンスだった。そのため、テレビ会議専  
 用端末やテレプレゼンスシステム系と言われるメーカーがほ  
 とんどで、一般にWeb会議システム系といわれる企業は  
 皆無に近かった。たとえば、シスコシステムズも出展してい  
 たが、テレプレゼンスシステムとデジタルサイネージのみ  
 でWebExのWeb会議は展示されていない。マイクロ  
 ソフトも見られない。これらはどちらかというとユニファイドコ  
 ミュニケーション系の展示会を主軸にしているのかもしれ  
 ない。

パビリオンや会議システム関連の企業を歩いてみて受けた印象としては、いくつかある。まず、一つめの印象は、展示されている製品は、720p もしくは 1080p HD に対応したものがほとんどだったという点。これは重要なことで、720p、1080p いずれにしても HD 化の流れは本格化したということを示すからだ。

ポリコム、タンバーク、ソニー、アエスラ、ライフサイズ、ラドビジョン、シスコシステムズ、Mirial (ソフトウェア型)、Terilis (テレプレゼンスシステム)、Vidyo、また日本ではほとんど知られていないかもしれないがカナダオンタリオの Magor Communications も HD 対応の低コストのテレプレゼンスシステムを展示していた。彼ら全て HD 化を語っていた。

そういった中での新製品としては、ポリコムは、HDX シリーズに新たに追加された HDX 6000、タンバークは C20 を展示。Vidyo では、Mac OS 対応のシステムや、1080p デモも行われていた。ライフサイズは、LifeSize Room 200 による 1080p デモが行われていた。ラドビジョンは、新製品としては、HD 対応(720p、1080p)の MCU である SCOPIA Elite やサムスン電子と共同開発したデスクトップソリューション SCOPIA VC240 を発表していた。アエスラの Aethra Xtreme 300 シリーズは、3 モデルの提供を予定。第四四半期から順次予定(イタリア本社での予定、日本は未確認)。スペックは、モデルによって 720p30 から 1080p60、9 地点 MCU 720p に対応。

またコーデック系では、NTT アドバンステクノロジーが、H.264HDTV ソフトウェアコーデック RISC A264-HD を紹介。パケットロスが原因として発生するブロックノイズに対する補正処理や低遅延が特長と説明を伺った。

ソニーは、すでに既発売されている PCS-XG80 の他、リモートカメラシステム BRC シリーズや最近発売された 1080p 対応 PTZ 一体型カメラ EVI-HD シリーズ 2 モデル、1080p 対応 EVI-HD7V と 720p 対応 EVI-HD3V を展示。EVI-HD シリーズは、既に 1080i 対応の EVI-HD1 が 2007 年 1 月以来販売されているが、主にビデオ会議用カメラとして全世界に展開している製品という。

ディスプレイと鏡を組み合わせるアイコンタクトを実現する

システムを開発する米 DVE 社も興味を引いた。DVE は今までのテレビ会議では十分なアイコンタクトが実現できなかったと考えており、既存のテレビ会議システムのコーデックと組み合わせたアイコンタクトシステムを開発。会場では、Vidyo やライフサイズのコーデックと組み合わせた展示とデモを行っていた。もちろん、ディスプレイと鏡を組み合わせるシステムであるため、コーデックはどのメーカーでも対応する。

DVE ブースの近くには、テレプレゼンスショーケースコーナーがあり、DVE のシステムが展示されていたが、遠隔地(?)にいる、カウボーイ姿のジョージブッシュ元大統領そっくりさんが、DVE のシステムを使って会場の来場者に声をかけていた。筆者も声をかけられ、しばし歓談したが、日本には何回か行ったが、自分の自家用飛行機で行ったわけではなかったため日本の場所がわからないと南米あたりをとぼけて指でさしてみたりと面白かった。楽しくおかしく遠隔での映像コミュニケーションを理解してもらおうという主催者の考えから行ったようだ。

圧倒されたのは、ポリコムのテレプレゼンスシステム TPX と、タンバークのテレプレゼンスシステム T3 が会場ブースに設営されていたことだ。筆者は両方ともデモを体験させていただいたが、両社ともテレプレゼンスシステムへの力が入っていた。

ポリコムの TPX は、硝子張りの中に設置されていて、外からでもデモの状況がわかるようになっていたが、ニューヨークと会場を結び、ニューヨークの方(5名)と会場参加者(筆者入れて5名)と自己紹介をしながら、ニューヨークの方から製品の紹介をしていただいた。

タンバークは、同社のホームページに掲載されている T3 のビデオで観られるものと全く同じ部屋をブーススペース内に設置。デモでは、タンバークの US オフィス(レストン)と接続してレストンの T3 から説明とデモを実施。デモでは、T3 同士の他、専用端末との接続、他社製のテレプレゼンスシステムとの接続、などを拝見。操作メニューパネルは iPhone ライクなインターフェイスで設計されている。

二つ目の印象としては、端末本体(コーデック部)の小型化が一段と進み出しつつあるということ。

90年代に専用端末はそのコーデック部の小型化(ピクチャーテルのSwiftSiteやポリコム(Viewstation)など)が進んだ。そのためセットトップ端末などが出て来たが、その後、2000年から2008年にかけてさらなる小型化が進んだ観がある。たとえばソニーのPCS-1、タンバークのEdge、ライフサイズのExpressなどからそれを感じる。そして、今回タンバークから出て来たC20は、従来の製品の筐体サイズよりもさらに小さくなった。90年代にここまで本体が小さくなるとは想像もつかなかったが、技術の進展から考えれば当然の帰結ということだろうか。

またデスクトップソリューションも多数見られた点も3つめの印象。たとえば、ポリコムのCMAやタンバークのMovi、ライフサイズのLifeSize Desktop、ラドビジョンのSCOPIA Desktop。やはりこちらも、映像受信に関して(デコード)については、720pに対応をさせてきている。もっとも、これらはパソコンで動作するものであるため、パソコンのCPUの性能がやはり最新のものCore Duoなどが必要になるようだ。

あと気が付いたのは、Magor Communications(カナダ)などの低コストテレプレゼンスシステムのメーカーが出て来たことだろう。中国では既に同様なメーカーが出て来ているというような話は聞いたことがあるが、これは、既存のパソコンの性能の向上やHD対応のカメラやプラズマディスプレイが可能にしたとも言える。ひとつMagorの面白いと思った点は、自然なアイコンタクトを実現するため、カメラの首を画面の下側から出している。Magorは、ブースに2室のプレハブを設置し、それぞれの部屋にMagorのシステムを設置してデモを行っていた。

またH.264/SVCが徐々に広がりつつあるのかというも感じた。VidyoがH.264/SVCベースの製品を業界で初めて出したが、その後ラドビジョンもH.264/SVCに対応(今回の展示会でも対応を発表)、Telirisも対応を発表した。

筆者が感じた“トレンド”以外に、話題になったのは、まず、ラドビジョンが、韓国サムソン電子と提携し、24インチディス

プレイにテレビ会議コーデックを内蔵したハードウェアエンドポイント製品を低い価格で発表したこと。製品名は、「SCOPIA VC240」。カメラや動作しているコーデックは、HDに対応している。またパソコンのディスプレイとしても使えるシステム。

その他の出展者では、まず、シスコシステムズでは、CTS-500とデジタルサイネージの展示。

Avistarでは、ソフトウェア型H.323/SIP対応テレビ会議システム。

Terilisでは、新発売の廉価6G TelePresenceなど展示。1ヶ月で130台のオーダー。数億円規模受注で話題に。

Video Furniture Internationalでは、テレビ会議、テレプレゼンス用会議卓やテーブル椅子などを展示。専門会社があるということはアメリカらしいと感じた。

Smart Technologiesでは、デジタル電子ボードによる遠隔データ会議システム。こちらも遠隔会議専門メーカーとしては、ポリコム、タンバークに次ぐ大きさのブースだった。ClearOneも結構スペースを大きくとって音声会議システムを展示していた。

GlowPointでは、IPテレビ会議サービス、テレプレゼンス相互接続サービス(TEN)開始。

NTTアドバンステクノロジーは、初めてinfocommに出展。RISCA264-HD、G.711.1(NTTなどでITU-Tで標準化した7kHzの音声符号化方式)、電話会議用高性能音響エコーキャンセラRealTalk7の海外プロモーションのために出展。G.711.1は、多地点ミキシングの負荷が軽減でき、NGNネットワークでの使用に最適化されている。2010年には14kHzにも対応させる予定。

infocommでは展示だけでなく、セミナーも開催された。こちらは、非営利の業界団体IMCCA(Interactive Multimedia Collaborative Communications Alliance、<http://www.imcca.org/>)がinfocomm事務局と共同で主催するIMCCA TelePresence DayやIMCCA Seminar、IMCCA State of the Industry Lunch & Learnが6月17日、18日に行われ業界関係者やエンドユーザなどが参加し

た。

筆者はこの TelePresence Day に参加したが、たまたま隣に座った人がオーストラリアの販売会社の方で筆者と同じく初めての参加で、infocomm 展示会(会議システムパビリオンも含め)の大きさに驚いたようだった。「オーストラリアでも会議システムのイベントはあるが、オランダの infocomm の大きさには驚いた。」と来てよかったと嬉しそう。

さて、セミナーを通して言われていたことは、出張旅費や CO2 削減、遠隔地間でのミーティングやコラボレーションの生産性や効率性を上げる、といった従来言われ続けてきたことではあったが、会議システムの有効性が各発表者やパネリストなどからアピールされていた。

またそれに加えて、会議システムは通信端末であるということから、その製品に使用される技術は、グローバルにスタンダード化されるべきであるし、今まで業界はその方向で取り組んできたという点。“universal protocol”や“universal



transcode”と言った言葉で説明していた。加えて、通信端末とネットワークは車の両輪であるという点から、今後マネージドサービスが重要になっていくのではないかと考えても通



信事業者系などからの発言があった。

右下写真(上)タンバーグ 北米担当プレジデント Rick Snyder 氏講演、(下)ポリコム CEO Robert Hagarty 氏の遠隔講演

技術のスタンダード化、つまり相互接続性の重要性は、ポリコムの Hagarty 氏もタンバーグの Snyder 氏も強く言っていた。

Snyder 氏の講演は、働き方を変えるという観点から、会議システムの有効性をアピール。また T3 の特長をレストンと接続して説明。その中で、技術を感じないソリューションの重要性を実現していきたいという考えを示す。

Hagarty 氏のプレゼンは、HDX での遠隔プレゼンで、現在のポリコムの事業状況と VC2 の説明が中心だった。またポリコムソリューションとしては、電話やインスタントメッセージングと同じくらい簡単に使えるソリューションが重要だと述べていた。

その他、テレプレゼンスについては、各社各様で統一した定義付けが難しいという話題もあった。セミナー会場の雰囲気から、しばらくは各社各様の使われ方が続くような印象を持った。しかし、製品を指す一般名詞として、従来 videoconference という言葉が一般的だった。しかし最近では、telepresence という言葉も広がりつつある現状を考えると、将来は、videoconference という言葉は次第に telepresence に置き換わっていくのではないだろうかと筆者は大胆にも予想する。

Skype などの VoIP 脅威論も出て来た。それほど深刻な議論にはならなかったため、業界としては認識が割れているのかもしれない。筆者としては、脅威とは思えないと感じている。そういった VoIP ベンダーのソフトウェアは、ニーズの多様化の中で出て来たものであり、むしろ会議システムの可能性を広げる方向に貢献するのではないかと考えるからだ。

事例発表もあった。航空機製造メーカーロッキード社とエンターテイメント会社ウォルトディズニー社の担当者が発表したのが興味深かった。グローバルに展開している企業では、ワールドワイドに効率的にコラボレートができる



環境が重要。そのため、会議システムだけでなく、ユニファイドコミュニケーションも導入しているという。会議だけでなく遠隔トレーニングや面接でも使用されており、前者の企業では、月に19000回の会議が行われているという。

今回の展示会は、テレビ会議やテレプレゼンスシステムと呼ばれる製品が主体の内容だったが、景気の低迷の影響を受けているとはいえ、5年、10年前と比べやはり着実に進化している。この何年か何度も言ってきたが、一昔前までは、紙芝居風の映像や映像の滑らかさがなく、など揶揄されたりしてきたテレビ会議システムではあったが、映像は720pや1080p/i、音声は20khzやステレオなどの高音質などが出て来て、テレビ会議はそういったネガティブな印象を払拭してきつつあるといえる。

たしかに、HD解像度は必要なのかという議論はまだまだあるが、筆者の個人的な考えからすると、テレビ会議は今まで臨場感や同室感を求めて進化してきたことを考えると、映像と音声はテレビ会議の存在理由だと思えるし、そうであれば、HD化は当然の結果であるとともに通過点でもある。

またニーズが多様化している中で、ゼロサム的にSDかHDかの議論はどうなのだろうかという気もする。「HDは不要だ。SDだけでいい。」というユーザもあるだろうし、逆に「HDでないといけないうい。」というユーザもいるだろう。あるいは、「必要に応じて両方対応したほうがいい。」というものもあるだろう。それがニーズの多様化だと思う。

今回遠方ではあったが、オーランドまで足を伸ばして展示会に参加して良かったと思っている。毎年は難しいとしても、また機会があれば是非参加したいと思いつつ、早朝オーランドを後に帰国の途についた。

感想は手短にするつもりだったが、長文となってしまう、個々まで読んで頂いた方には深謝する。

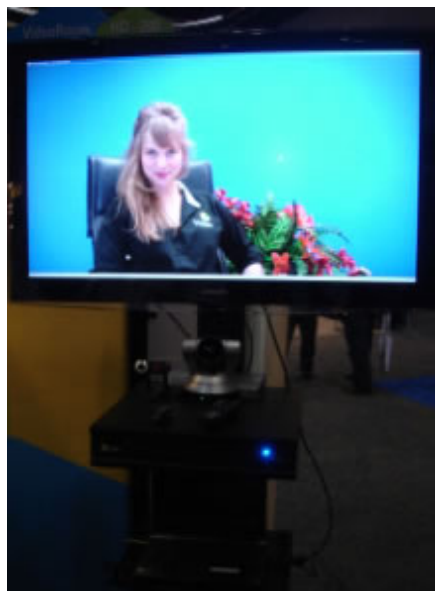
以下展示会で撮影した写真を掲載する。ちなみに、Youtubeで「infocomm」などと入れるとブースの様子を撮影したビデオが投稿されている。タンバーク、ライブサイズ、ラドビジョン、Telirisは確認したが、その他は未確認。



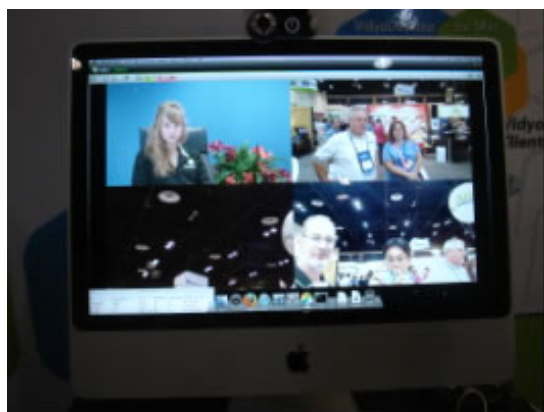
ラドビジョン-SCOPIA VC240



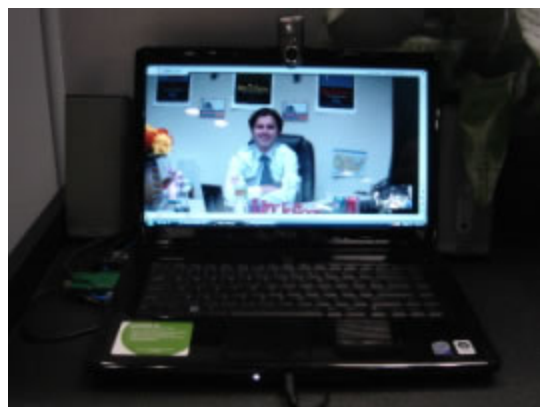
ラドビジョン-SCOPIA Elite



Vidyo- 1080p デモ



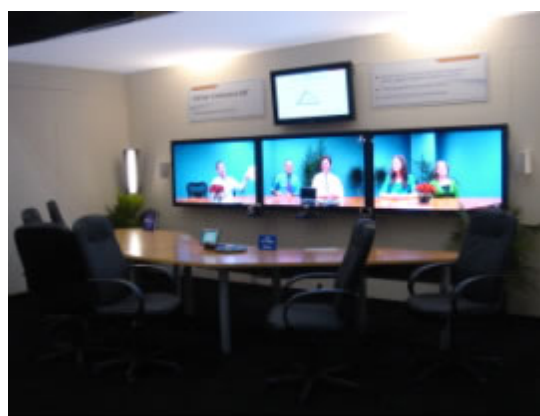
Vidyo- Mac OS X 対応版



ライフサイズ - LifeSize Desktop デモ



DVE-T-50 Group System、多人数タイプもある  
他社のテレビ会議コーデックと組み合わせることが可能



ライフサイズ - LifeSize Conference 200 デモ



ライフサイズ - LifeSize Room 200 1080p デモ



アエスラ -  
Aethra Xtreme  
300 シリーズ  
3 モデル(Q4 予  
定) 720p30 から  
1080p60。また  
720p による 9 地  
点同時多地点接続  
MCU。



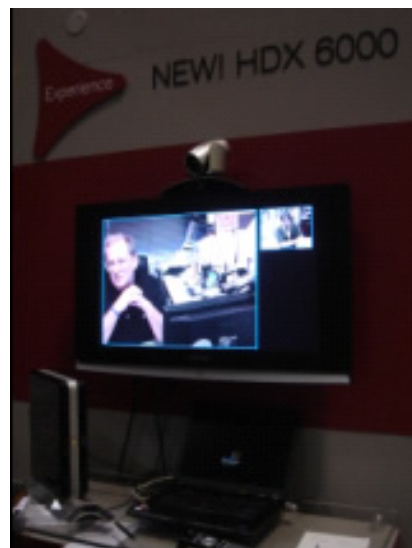
アエスラ - Aethra Mia XC デスクトップ型 IP テレビ電話



ソニー EVI-HD7V 1080p



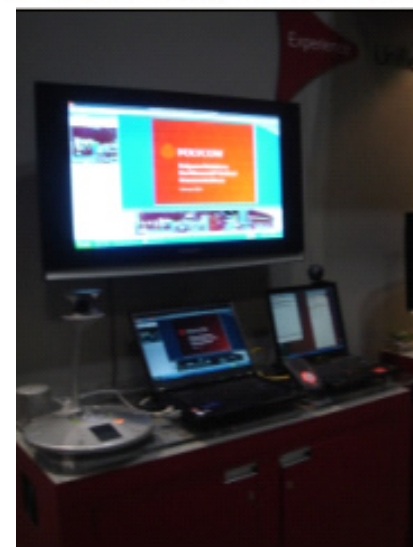
ソニーでは、HD 対応カメラや PCS-XG80 を展示



ポリコム - 日本でも発売になった HDX 6000



ソニー PCS-XG80



ポリコム - 新製品 CX 5000 左端(マイクロソフトでは RoundTable と呼ばれていた製品) ちなみにポリコムでは、UC 向けは CX シリーズと呼ぶ。



ポリコム - 日本では未発売の VVX1500



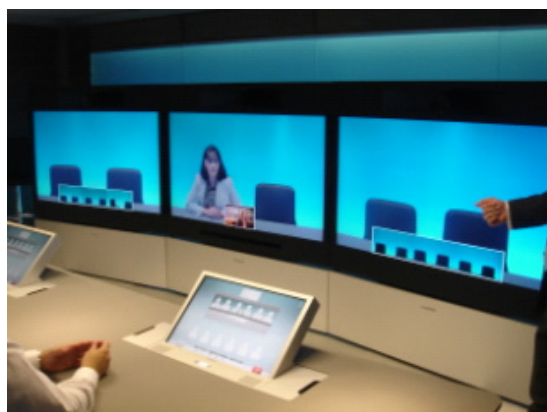
タンバーク - 日本でも発売になった C20



タンバーク - 展示会場でも目立っていたブース



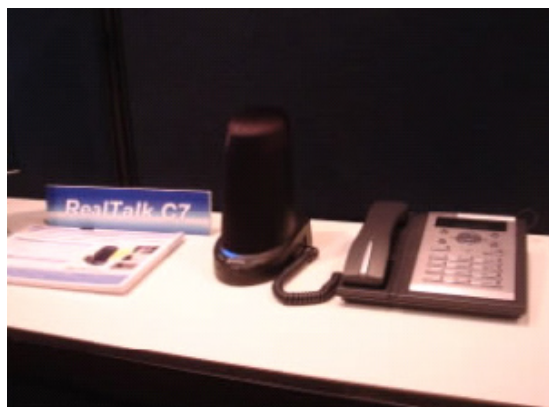
NTT アドバンステクノロジー - G.711.1 を海外プロモート



タンバーク - T3 テレプレゼンスシステム デモ



NTT アドバンステクノロジー - G.711.1 音声デモ



NTT アドバンステクノロジー - RealTalk C7



Magor Communications (Magor 資料) -アイコンタクトのためカメラの首が画面下から出ているのが特徴のひとつ。

各企業様にはブースにて対応していただきまして大変有難う御座いました。この場にて御礼申し上げます。

(Infocomm レポート終わり)

## セミナー・展示会情報

### <国内>

見逃すな！できる企業の会議システム活用術！  
必見！会議システム最前線！

日時:8月21日(金)14:00~(受付:13:30~)  
会場:大塚商会 本社ビル 3階 セミナールーム302  
主催:株式会社大塚商会  
協力:ポリコムジャパン株式会社/株式会社ブイキューブ  
詳細・申込:<http://event.otsuka-shokai.co.jp/09/0821ict/>

模擬 Web 会議をのぞき見！リアルを超えた WebEx 効果を体験

日時:8月25日14:00-15:00  
会場:Web セミナー  
主催:シスコシステムズ合同会社

Cisco WebEx テクノロジグループ

詳細・内容:

[http://www.webex.co.jp/web-seminars/webseminar\\_082509.html?SourceId=hp](http://www.webex.co.jp/web-seminars/webseminar_082509.html?SourceId=hp)

### 朝日ネット×ブイキューブ 共催 Web セミナー

日時:8月27日14:00-15:00

会場:Web セミナー

主催:株式会社ブイキューブ

共催:株式会社朝日ネット

詳細・申込:

<https://vcube.smartseminar.jp/public/seminar/view/61>

\*朝日ネットの教育向けの支援ツール『manaba(マナバ)』とブイキューブのビジュアルコミュニケーションツール『nice to meet you』の共催セミナー

### リアルタイム高精細(HD)映像通信機器開発セミナー ~最新の映像技術(H.264/SVC)及び大幅な開発費削減を可能とするソリューションのご紹介~

日時:9月1日(火)13:30~17:00(受付13:00~)

会場:NTT-AT プレゼンテーションルーム(新宿)

主催:NTTアドバンステクノロジー株式会社

グローバルプロダクツ事業本部

メディアコミュニケーションプロダクツビジネスユニット

共催:RADVISION Ltd.

日本テキサス・インスツルメンツ株式会社

詳細・申込:

[http://www.ntt-at.co.jp/eventseminar/seminar/2009/detail/s\\_20090901.html](http://www.ntt-at.co.jp/eventseminar/seminar/2009/detail/s_20090901.html)

### <海外>

### NexCom Expo 2009 (Fall session) & CIPCC 2009 (China IP Communications Conference)

日時:9月23日-25日

会場:中華人民共和国 上海市

主催:全球IP通信連盟

詳細:<http://www.cipcc.cn/>

\*ユニファイド・コミュニケーション、会議システム、ワイヤレス、IPTV 展示会&カンファレンス。

### The PUG 2009 Annual Conference(Polycom User Group)

日時:10月11日-14日

会場:アメリカ フロリダ

主催:ポリコム・ユーザー・グループ

詳細:<http://www.pug.com/>

\*ポリコムのユーザーカンファレンス&展示

### 編集後記

今号もお読みいただきありがとうございました。

今後とも宜しくお願い致します。(橋本啓介)